

ソロモン諸島のショウジョウバエ

高田春夫(札幌大・教養)

Drosophilidae (Diptera, Insecta) of Solomon Islands

HARUO TAKADA

1973年の7月から8月にかけて、オセアニアのショウジョウバエ野性集団の構成を調査した際に、その行程の一部であるソロモン諸島ガダルカナル島ホニアラと、ニューギニア島ムンダで採集を行なった。

ホニアラでは、キノコに集まるフサショウジョウバエ亜属の *Drosophila* (*Hirtodrosophila*) *menisigra*, *D.* (*H.*) *seminigra* および新種の *D.* (*H.*) *solomonica* (未記載) などを採集した。また、ホニアラとムンダでは、アナナスショウジョウバエ *D.* (*Sophophora*) *ananassae* の近似種の *D.* (*S.*) *pallidosa* の分布が判明した。その結果、1) *D.* (*H.*) *solomonica* は、南米に多く分化してしかもサモアやフィジーにもいる *Zygothrica* 属と、形態的によく類似しているため、その起源には地理的な関連のあることが考えられた。

2) かつて Futch (1966) は、サモアのアナナスショウジョウバエから、明色型と暗色型とを分離し、それら相互に性的隔離の存在と、染色体逆位の相違を述べ、Johnson ら (1966) は、これら両者にアイソザイム多型のあることを認め、かつ成瀬 (1966) は、両者間の移動行動に遺伝的差異を報告したので Bock & Wheeler (1972) は、この明色型を *D. pallidosa* と命名した。そこで、このアナナスショウジョウバエとその近縁の1群を、雄の性腺の類似性と、外部生殖器官の aedeagus の円筒状(分岐していない)等の特徴から *ananassae-complex* といい、これらの geographical な分布に触れてみたい。すなわち、*D. pallidosa* は、サモア、フィジー、トンガ、ソロモン、ニューブリテン(ラバウル)および東部パプア・ニューギニア(ポボンデッタ)に渡って広がっていることが確認された fruit(+yeast) feeder である。

フタクシショウジョウバエ類の分布からみた亜種の分化

岡田豊日(東京)

Subspeciation of the *Drosophila bipectinata*-complex in view of distribution

TOYOHI OKADA

フタクシショウジョウバエ類 (*Drosophila bipectinata*-complex) は東南アジアを中心に4種が分布しているが、そのうち2種 *Drosophila malerkotliana* Parshad & Paika と *D. pseudoananassae* Bock とは、それぞれ雄の腹背端が黒いか黄色いかによって2亜種に分けられている。*malerkotliana* はアフリカ、インドからセレベスにかけて分布し、2亜種 (*malerkotliana*, *pallens*) の分布境界線はマレー半島とボルネオの間にある。*pseudoananassae* はインドからニューギニア、ソロモン、オーストラリアにかけて分布し、2亜種 (*nigrens*, *pseudoananassae*) の分布境界線はボルネオとセレベスの間にあり、大体 Merrill 線と一致する。両種とも境界線の西方に分布する亜種 (*malerkotliana*, *nigrens*) は黒色型、東方に分布する亜種 (*pallens*, *pseudoananassae*) は黄色型である。

ショウジョウバエの発祥した中世代の終りから新世代の初めにかけては、スンダ列島やニューギニア北部はまだ海中にあった。恐らくアンガラ大陸南部に発祥したこれらのショウジョウバエは、スンダ列島、ニューギニアの陸化とともに東方に向かって分布を拡げていったものと思われる。すなわち、1. 黒色型は黄色型より後に発祥地近くに新生したか、2. 黒色型が東進とともに黄色型を新生したか、の何れかであることが考えられる。しかし地史のおよび遺伝的には後者(2.)の方がより確からしく思われる。